

2023年度第6回オンライン授業に関するJMOCワークショップ
シリーズ「次世代教育への道をひらく：高等教育の変容を考える」
マイクロクレデンシャルの普及と展開 発表資料

マイクロクレデンシャルのフレームワーク、 ガイドライン案の意見募集に対する回答

岡田 祥成

一般社団法人日本オープンオンライン教育推進協議会 事務局
マイクロクレデンシャル共同WG 事務局



意見募集の概要



1. 意見募集対象：
 - ・マイクロクレデンシャルに関するフレームワーク（案）
 - ・マイクロクレデンシャルのデジタル証明をデジタルバッジで発行するためのガイドライン（案）
2. 意見募集期間：2023年9月30日（土）から11月30日（木）まで
3. 意見提出数：

対象	意見提出数
マイクロクレデンシャルに関するフレームワーク（案）	13
マイクロクレデンシャルのデジタル証明をデジタルバッジで発行するためのガイドライン（案）	10

マイクロクレデンシャルのフレームワーク、ガイドライン案 の意見募集に対する回答（1/4）

分類	対象	ご質問・ご意見	回答
共通	標準化	マイクロクレデンシャルに求められているのは、ガイドラインではなく、標準であり、ガイドラインという形式では心許ない。解釈の幅を許すガイドラインという形式では、将来の情報活用において有効でないと考えられるので、関係各方面と協調する形での標準化を指向することを求めるものである。	<ul style="list-style-type: none"> ・国内の関連機関との連携を引き続き行います。 ・国際連携に関しても、既に、UNESCOとの連携、ASEAN各国との連携を国際会議などを通じて進めています。 ・教育や学位に関する国際規約と情報技術に関する技術標準の両方に跨るために、両者の連携のためのアーキテクチャの提示を含めて活動を進めます。
共通	記述の構造化	将来的には、MC用に構造化して記述可能な仕様を設けた方が、MCと認められないバッジとMCが明確に区別されて、よりマシンリーダブルになるのではないのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・将来的の、MC用を構造化して記述可能な仕様として、Competencies and Academic Standards Exchange (CASE) の使用の検討を次年度に開始する予定です。 ・国内外の単位互換の事務負担の軽減にもつながります。
共通	発行機関	発行機関の検証を行うための情報（識別子、URIなど）を含めるべきである	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロクレデンシャルをデジタル発行する際の発行機関の識別子は、デジタル発行する際の情報技術（手段）に依存するため、情報関連の協力機関と連携して検討します。
共通	学習者名	学習者に関する情報（識別子、属性情報など）を必須記述子に含めるべきである	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習者を識別する情報」を必須記述子に加えます。 ・学習者学習者を識別する情報は氏名の他に多様な形態（マイナンバー、教育機関固有の学生番号、機関で発行した番号等）があり、特定の方法を選択するのは困難です。海外では、国民識別番号を用いることを推奨している国もあります。 ・マイクロクレデンシャルをデジタル発行する際の学習者の識別子は、情報技術（手段）に依存するため、情報関連の協力機関と連携して検討します。

マイクロクレデンシャルのフレームワーク、ガイドライン案 の意見募集に対する回答 (2/4)

分類	対象	ご質問・ご意見	回答
MCフレームワーク	マイクロクレデンシャルとして認められる条件	学習者が他者へ譲渡可能なものを除外すべきである	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロクレデンシャルの必須記述子に「学習者を識別する情報」を加えます。 個人に対し授与されると明記することを検討します。
MCフレームワーク	マイクロクレデンシャルとして認められる条件	日本にある特定の制度（例えば、履修証明制度等）はマイクロクレデンシャルとして認められるのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・履修証明制度では、「学修成果を定義して、それを評価する」との条件が明記されていませんが、発行機関が履修証明プログラムに対して、「学修成果を明確に定義し、評価を行いそれを明示」すれば、マイクロクレデンシャルとして国際的に通用します。
MCフレームワーク	マイクロクレデンシャルとして認められる条件	「信頼できる発行機関であることを示すために、発行機関は教育活動が含まれる機関の情報を公表する。」とありますが、どのように公表するのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動が含まれる機関の情報のWebサイトなどのURIを記載して下さい。URIを記載する場所は、フレームワークの必須記述子：「質保証の方法」と「発行機関」のどちらか、または両方です。
MCフレームワーク	内容 Content/ Description	EUでは「内容 Content/ Description」の箇所が欠落する点は、多くの機関が認識していないと思われるので、MCフレームワークとガイドライン案の双方で明記いただいた方が良くないでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・MCフレームワークとデジタル発行のガイドラインの両方に、「内容 Content/ Description」は極めて簡潔な記載とするように明記します。（欧州やアジアでのマイクロクレデンシャルの国際流通の過程で、この記述子が抜け落ちて困らないように）
MCフレームワーク	学修成果の評価の方法	学修成果の評価の方法は機関の裁量に任せるのか、特定の方法を指定するのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・各機関が学修成果の評価の方法を明確に記述する必要があります。具体的な方法はフレームワークでは指定しませんが、評価の方法に関する例やグッド・プラクティスは、共同WGのサイト等で共有を検討します。

マイクロクレデンシャルのフレームワーク、ガイドライン案 の意見募集に対する回答 (3/4)

分類	対象	ご質問・ご意見	回答
MCフレームワーク	質保証	マイクロクレデンシャルとして認められるためには、質保証の内容について特定できる必要があるのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての発行機関は、マイクロクレデンシャルに対して、発行機関自らが内部質保証を実施し、機関内での内部質保証を記載した文書等をURI等で公表する必要があります。 ・外部質保証は必須条件とはしていません。
MCフレームワーク	学習量 (総学習時間)	必須記述子「学習量」に単位の併記を認めると、「単位/その他の認定」の単位の記載と重複します。	<ul style="list-style-type: none"> ・必須記述子「学習量」に単位の併記を認めず、「単位/その他の認定」にのみ単位を記載するように改訂します。
MCフレームワーク	単位/その他の認定	UCTS (アジア太平洋大学交流機構UMAP単位互換方式) だけでなく、ゆくゆくはECTS (欧州単位互換制度) も認めてはどうか	<ul style="list-style-type: none"> ・欧州との連携を想定してマイクロクレデンシャルを発行する場合には、ECTSでの単位の記載も可能です。 ・フレームワークに追記します。
MCフレームワーク	用語	Uniform Resource Identifierが具体的に何を意味するのかが不明なので説明が必要。	<ul style="list-style-type: none"> ・フレームワークの用語の定義または共同WGのWEB上の用語集などで説明するように検討します。 ・Uniform Resource Identifier (URI) は、Uniform Resource Locator (URL)と Uniform Resource Name (URN)を合わせた総称です。 ・URLは、リソースの「場所」を識別します。ネットワーク内の位置を指定します。例：WEBサイトのアドレス指定等。 ・URNは、リソースの「名前」を識別します。例：書籍のための国際識別コードであるISBN、論文などの識別番号として使われているDOI等。

マイクロクレデンシャルのフレームワーク、ガイドライン案 の意見募集に対する回答（4/4）



分類	対象	ご質問・ご意見	回答
デジタル発行 ガイドライン	情報技術の 選択	OpenBadge以外のクレデンシャル フォーマットについても取り上げるべき である	<ul style="list-style-type: none"> ・ Open Badges以外ですと、マイクロクレデンシャルのデジタルバッジとして国際的に使用されているのは欧州規格の Open European Digital Credential、Europassです。共同WGでは、マイクロクレデンシャルのデジタル発行手段を Open Badges3.0、2.0などの1EdTech標準を推奨しています ・ Open European Digital Credential、Europassを含めたアーキテクチャは検討しています。
デジタル発行 ガイドライン	メタデータ の記述例	Open Badgeを用いた場合のメタデータ の記述例が添付されていると、具体的な イメージとして参考になるのではないかと 思います。	<ul style="list-style-type: none"> ・ メタデータの記述例、マイクロクレデンシャルの発行例などを、共同WGのWEBサイトに適宜公開できるように検討します。
デジタル発行 ガイドライン	取得条件 criteria	「取得条件」ではなく、「認定基準」な ど、適切な名称にした方が良いのではな いでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「criteria」のメタデータの英語名は、Open Badgesの標準仕様のため変更ができませんが、日本語訳は、国内の関連団体と連携して検討します。
デジタル発行 ガイドライン	URIによる 表示を許す 場所につい て	フレームワークでは質保証の基準名称、 ナンバリングの定義など、補足情報は URIによる表示が可能であると理解しま した。URIで補足情報を示すことが可能 である場合、その旨を記載いただければ ありがたいです。	<ul style="list-style-type: none"> ・ URIで補足情報を示すことが可能であることを明記します。これは、Open Badgesのメタデータ毎に決まっています。 ・ 「取得条件 criteria」にはURIが記載できます。 ・ フレームワークの記述子単位でも、必要な箇所は明記します。例えば、「内容 Content/ Description」は、URIの使用を禁止します。

マイクロレディンシャル共同WG ホームページのご案内



- ✓ 新着ニュース
- ✓ 関連資料ダウンロード
- ✓ よくあるご質問 (FAQ)
- ✓ 日英対応

2024年1月末リリース予定

